新　第6号（2011年9月28日 発行）

NEW ネットワーク しまだ
Network Shimada

50th Anniversary 歩み続けて50年 そして未来へ

発行者　島田療育センター
院長　木実谷 哲史

家族支援プロジェクト

就学情報交換会☆先輩ママの体験談＆交流会

家族支援プロジェクトは、平成21年より発達障害、肢体不自由または発達に心配のあるお子さんを持つご家族が元気に子育てに向き合っていけるよう支援することを目的に、後援会田中基金の助成を受けて、交流会や講演会を開催してきました。

今年度第1回目は、6月12日（日）に就学を控えたお子さんのご家族を対象に「多摩市就学情報交換会」を開催しました。はじめに教育委員会の方より特別支援教育や就学相談についてご説明頂き、続いて、実際に特別支援教育に携わる特別支援コーディネーター、通級制特別支援学級、固定制特別支援学級の先生方より、学校での取り組みや授業内容について具体的にお話し頂きました。次に先輩保護者の体験談、当センター医師より医療の立場から、それぞれお話し頂きました。先輩お母さんからは、それぞれに発達の心配があったごきょうだいの学校生活や、ご家族の奮闘などを明るくお話し頂き、保護者が学校へ積極的に出向くなど、学校と協力しあう関係作りの大切さを教えて頂きました。最後に各ブースに分かれて自由に質問できるコーナーを設けました。熱心に先生方に質問したり、他のご家族の相談に耳を傾けていらっしゃる方々の姿が印象的でした。

就学情報交換会の様子

第2回目は7月10日（日）に「先輩ママの体験談を聴く会＆交流会」を開催し、3人の先輩ママからそれぞれ体験談を語っていただきました。発達障害のお子さん、発達に心配のあるお子さんのご家族やその関係者など11組が参加されました。

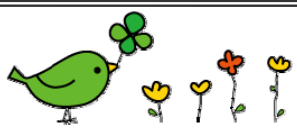
前半の講演会では、小学5年の支援学級に通う娘さん、特別支援学校高等部3年の息子さん、34歳の発達障害を持つ息子さん、それぞれのお母様が、体験談をお話しくださいました。幼少期からご家族が課題や悩みを乗り越えてきた過程、自立を目指して生活の中で工夫されたこと、子供をとりまく地域の人々とのつながりなど、具体的なエピソードを盛り込んだ心温まる素敵なお話に、涙を流される参加者もいらっしゃいました。

後半の交流会では2グループに分かれ、講師の先輩ママを囲んで自己紹介、悩み相談、意見交換などを行いました。幼稚園･保育園選び、就学･進路、勉強、友達関係など、たいへん幅広い内容で活発に意見交換されていました。先輩ママからの具体的なアドバイスや同じような悩みをお持ちの他のご家族との出会いを通して、参加されたご家族が、今までよりも少し先の見通しと一緒に、目の前の課題に向き合う勇気と元気を持って帰って頂けたのではないかと思います。

第3回目は10月2日（日）に大正大学玉井邦夫先生をお迎えし、ご講演頂く予定です。是非是非お越しください。

（言語聴覚士　志村 みさと）

かるがも　家族交流会



6月23日（木）、当センターデイケア集団訓練室にてPT科主催による障害を持つ就学前のお子さんを育てる保護者を対象とした保護者交流会「かるがも」が開催されました。前回に引き続き児童精神科医である井上祐紀先生にお越し頂きました。前回、井上先生が話された内容が好評だったこともあり「井上先生のお話が聞きたくて今回も参加しました」という保護者が数名いらっしゃいました。今回のお話は「ストレングスモデルで元気になる」というものでした。ストレングスモデルとは「当事者の願望・目標を引き出し、強み（ストレングス）を生かして元気になろうという視点」ということらしいです。これは心の健康についてマネージメントを行う上でのモデルの一つになるそうです。

先生は保護者一人一人に「どんな子供だったか」と問い掛けました。積極的にご自分の話をされる保護者が大半でした。先生の引き出し方による影響も大きいのですが、殆どの保護者が自然に自分を語っていました。「自分を語る」ということは「元気になる」ことに結びつくのだなと思いました。

勿論、語るには聞いてくれる人がいなければなりません。実際「自分を語る」ことは難しいと思います。自分を語ることで相手から非難される場合もあるからです。そうなると元気になるどころか病気になってしまいます。人というのは極一部を除いて皆、気が弱い生き物だと思います。「私は一人が良い」という人でも自分が思っていること行っていることに共感されると嬉しく感じるのではないのでしょうか。決して嫌な気持ちにはならないでしょう。「私一人では無理」という人は自分を相手に語る前に、相手の語りを聞くのが良いと思います。そうすれば相手方もじっくりと話を聞いてくれる可能性が高くなります。一方的はどこまでも一方方向なのだと思います。

今回で3回目となる「かるがも」ですが、前2回に比べ保護者の笑顔が多くみられた印象を受けました。やはり自らを語ることにより元気になったのではないしょうか。しかしながら先生から「今日の元気度は？」といった問いかけに低めの数字を出した保護者が殆どでした。何故でしょうか。自分が見ている限りそのような低い数字の元気度には見えない保護者が大半でした。もっともっとストレングスモデルが必要なのかも知れません。もっともっと他の何かが必要なのかも知れません。

（理学療法士　杉沢 英浩）

S-フレンズ　中学生グループ

Sーフレンズでは、学校での集団活動や友だちとの関わりの中で難しさを抱えているお子さんを対象に、それぞれのニードに応じた社会的なスキルを育むグループ指導を行っています。開始当初は小学生のお子さんのみを対象としていましたが、中学生のお子さんを持つ親御さんからのご要望を受け、平成20年度から中学生も対象となりました。今年度は、小学校高学年のお子さん2名を含めた、計11名のお子さんが中学生グループにご参加されています。

どのお子さんも友だちと関わりたい気持ちはあるものの、声をかけるタイミングがわからなかったり、自分の気持ちをうまく言葉にできなかったりと、それぞれに友だちづきあいを築いて行く上でつまずいているポイントがあります。そこで“中学生グループ”では、参加者が自分の興味を大切にしながら、他の友だちの興味にも関心を持ちつつ活動のできる居心地の良い場所を提供すること、その中で自己の理解を深めながら仲間とのコミュニケーションのスキルを学び自信を持ってもらうことを主な目的としています。

具体的には、①「最近はまっていること」「友だちに聞いてみたいこと」などテーマに沿って会話を楽しむ②みんなで相談して自分たちのグループ名やゲームのルールを決めたり、イベント活動を企画・実行する③“なんでもバスケット”“UNO”などのゲームを通して仲間同士の交流を楽しむ、などの活動を行っています。なお、②の活動では、今年度はWii大会、カラオケ、自分たちで出店を企画してのお祭りなどのイベントを行う予定です。活動の中では、「私もそれ好き！」と友だちとの共通点に明るい表情を見せたり、お腹を抱えて笑いあったりと、それぞれが自発的に友だちと関わる様子が見られます。同世代の仲間同士でのコミュニケーションの楽しさをより実感してもらえるよう、今後も支援していきたいと思います。

（心理判定員　和田 聡美）

しまだ文化祭　見る・披露する・遊ぶ・和む

今年で8回目を迎え存在感を増してきた『しまだ文化祭』。七夕の時期、7月6日（水）から9日（土）まで行われました。

毎年「見る・披露する・遊ぶ・和む」というテーマを掲げ、入所利用者様はじめ、通所利用者様、外来利用者様、ご家族、定期継続ボランティア様、職員を対象に開催されているこの文化祭。今年は例年以上に多くのボランティア様のご協力を頂き様々なイベントが催されました。

厚生棟では、毎年優しく澄みわたる歌声でオープニングを飾ってくださるヒーリング・デュオ「☆アルビレオ☆」様のコンサートをはじめ、八王子市を活動の拠点としている「パフォーマンスママ　レインボーズ」の皆様による涙あり笑いありのオリジナル劇、「花鳥風月　風瑠さ登」様による力強い日本伝統の舞を披露して頂きました。病棟出張イベントでは美容ケア、クラリネット・太鼓演奏、フラメンコ、紙芝居と豊富な内容でボランティアの皆様に盛り上げて頂きました。

日々ユニークな活動を展開している「ほっとステーション」「ピコピコルーム」でも、病棟出張企画や半日通いのプログラムが組まれ、どの企画でもいつもと違う利用者様の反応や表情を見ることができました。

地域の皆様には、センター内のあちらこちらに展示された各病棟、デイケア、ほっとステーションの『My日（まいにち）の楽しいこと』をテーマにした作品や写真を、またセンター創立50周年を記念した展示もご覧頂きました。その他、ブラックライトを浴びた七夕飾りの美しい「UFOルーム（スヌーズレン）」や、日本の夏と天の川をイメージした飾付けの「ほっとステーションB室」の開放、そして「摩桜の丘学園島田分教室」の公開授業といったプログラムにご参加頂きました。

今年も多くの皆様のご支援、ご協力により、無事に文化祭を終えることができました。

来年の文化祭もどうぞお楽しみに！

（文化祭実行委員長 第7病棟療育主任 志田 真由美）

Q

運動会や音楽会やその練習などの学校行事に参加することをひどく嫌がります。移動を促しても絶対に動こうとせず、更に促すと、泣いて騒いでしまいます。どうしたらいいでしょうか？

A

考えられる背景には、まず見通しの持てない状況に対する不安の強さがあります。行事の期間は通常とは違う場所や時間割で行われることが多いですね。お子さんの中にはいつもと流れや場所が違うことで“これから何が起きるのか”を予測できず、とても強い不安を感じる方が多くいます。

そのため、見通しが持ちやすいように配慮した事前の対応が大切です。例えば、『学芸会の練習があります』等の大枠ではなく、『体育館で○年生とダンスの練習をします』など具体的に伝えます。当日の日程表を用意し、行く場所や行う内容を絵や写真で示しておくと、安心して参加しやすくなるかもしれません。

また、大きな集団に入ることや特定の音など様々な苦手さがあるお子さんも、活動の内容やその状況によってその場にいられず、参加できないこともあります。嫌がっている状況と普段の様子を合わせてどこに苦手さがあるのかを探し、例えば音が苦手なのであれば耳栓を使う等、苦手な要因がなるべく少なくなるように環境を整えてあげることが必要です。

しかし、どうしても急に予定を変更しなければならず、事前の対応ができない場合もありますよね。その際に避けたいのは、本人が嫌がっているのに無理矢理みんなと同じ形で参加させることです。気持ちが静まるまでに時間がかかるうえ、“嫌な経験”として記憶されてしまい、その後の同様の行事への参加に支障がでる可能性があります。無理に従わせるのではなく、本人が許容できる範囲で参加させてあげることが重要です。部分的にでも「参加できた」という体験を積み、それに対して十分に周囲がほめてあげることで、少しずつ参加できる内容や時間が増えていくと良いですね。

（心理判定員　舘花 佳奈子）

9/10にわいわい祭りが開催されました！！

島田療育センター　今後のイベント案内

玉井邦夫先生講演会

テーマ「子どもと親がともに育ちあうために」～ゆっくり一歩ずつ～

日時：10月4日（日）　　時間：13時～15時

場所：島田療育センター　厚生棟

参加費：ひと家族1000円

定員：120名程度（定員になり次第、申込締め切り）

※託児サービスはございません。ご了承ください。

対象者：発達障害や発達にご心配のあるお子さんの保護者、関係者の方

詳細は当センターのホームページをご覧ください。

くつろぎフェスタ2011

日時：11月6（日）　時間：10時～16時

内容：福祉機器、コミュニケーション用具、栄養補補助食品、スムーズレン用品、介護用品等を展示予定。

参加費：無料

対象者：どなたでもそうぞ（定員なし・出入り自由）

※詳細は順次、ホームページに掲載予定です。

これらの催しのお問い合わせは…

地域連携情報室へどうぞ

TEL:042-374-2101　FAX:042-374-2089

（問い合わせ時間　平日9:00～17:45）

※E-mail とURLは下記をご参照ください。

地域療育等支援事業のご案内

①外来療育等支援事業（療育相談）
　運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
　①窓口：医療相談課　TEL042-374-2638(直)

②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。

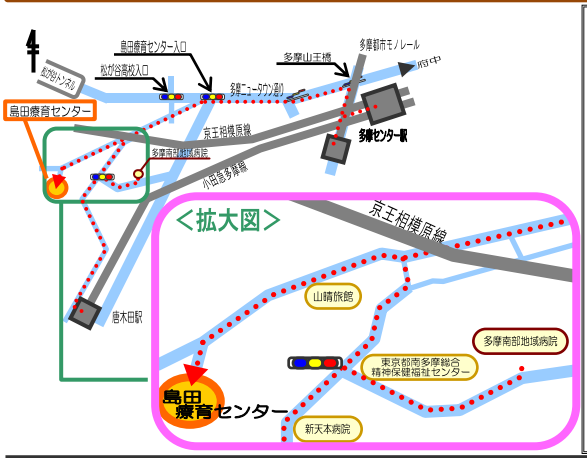
③訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。
　②③窓口：地域連携情報室
　TEL042-374-2101(直)

費用は…①②③とも無料です。

歩み続けて50年 そして未来へ

～50周年ロゴマークシール～

50周年ロゴマークのシールが、完成しました。期間限定で名刺などに貼られます。手にした人には、幸運が訪れるかも…❤



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20 分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
→下車　徒歩5分

編集後記

暑く盛り上がったわいわい祭りも無事終わり、すっかり秋めいてきましたね。皆さん夏の疲れは残っていませんか？秋といえば食欲・芸術・読書・スポーツと様々ありますよね。紅葉狩りをしながら、おいしいものを食べて、心もお腹も満たして疲れをとるのもいいですね。皆さん素敵な秋をお過ごしください。（林）

編　集　：　社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住　所　：　〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電　話　：　042-374-2071（代表）
E-mail　：　info-room@shimada-ryoiku.or.jp
U R L　：　http://www.shimada-ryoiku.or.jp